

浜の活力再生広域プラン

1 広域水産業再生委員会

組 織 名	別府湾広域水産業再生委員会
代 表 者	会長 三ヶ尻 正友

広域委員会の構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・別府地区地域水産業再生委員会（大分県漁協別府支店、別府市） ・杵築地域水産業再生委員会（大分県漁協杵築支店、杵築市） ・日出地域水産業再生委員会（大分県漁協日出支店、日出町） ・大分県漁協大分支店 ・大分市 ・大分県
オブザーバー	随時追加

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	大分県別府湾（大分市、別府市、杵築市、日出町）		
	地区	正組合員数	漁業種類
	大分市	79人	小型底曳網、船曳網、刺網、釣り、小型定置網、潜水、採貝、採藻、延縄、貝類養殖、その他
	別府市	71人	
	杵築市	210人	
	日出町	78人	
計	438人		

2 地域の現状

(1) 地域の水産業を取り巻く現状等

別府湾は大分県の国東半島と佐賀関半島に囲まれており、面積 475 km²、平均水深 36 メートルで、伊予灘西部に位置している。湾には大分川と大野川の 2 本の一級河川が流入し、湾奥が最も深いすり鉢状の構造をしていることから、海底に堆積したゴミ等が湾外へ流出しにくく底質環境が悪化しやすい地形となっている。

湾には 4 つの市町が面しており、大分県漁業協同組合の 4 つの支店がここで漁業を営んでいる（図 1）。漁獲量は、18,000 トン超の漁獲から、近年はその 1/3 程度の 6,000 トン前後で推移し（図 2）、平成 26 年の漁獲量は 4 支店合わせて、6,370 トン、漁獲金額は約 2,760 百万円、正組合員数は 438 名で、杵築支店が約半数を占めて最も多い。（表 1）。

漁業の特徴は、船曳網漁業による漁獲量が最も多く、次いで小型底曳網漁業、採貝藻、刺網漁業、小型定置網漁業の順となっている。一部の静穏域ではマガキの養殖も営まれている。船曳網で漁獲されるシラスは「豊後別府湾ちりめん」の名称で親しまれているほか、別府湾で獲れるマコガレイは「城下かれい」の名称で珍重されている。

漁獲量の 2/3 を占める船曳網で漁獲されるシラスは、地元で「ちりめん」や「いりこ」などに加工され、大手加工業者による直売を除けば、ほとんどが共販出荷されている。その他の魚種については、県内最大の消費地である大分市の公設市場やそれに次ぐ別府市公設市場へ出荷されるほか、県外の大規模市場などへ出荷されている。

特に小型底曳網漁業では、多様な魚種が漁獲されたり、時期によっては同一魚種が大量に漁獲されたりするため、魚種ごとにロットを揃えて最適な市場へ仕向ける体制づくりや、大漁時に蓄養したり、冷凍保存、加工するなどして、魚価を安定させる体制づくり、さらに低利用魚を加工して付加価値を高める取組などが求められている。

具体的には、夏場に多獲されるハモは、骨切り等の前処理を要するため、これまでは市場や仲卸中心に活魚で大量出荷され、単価が安かった。そこで、別府湾地域の飲食店、ホテル、一般消費者向けの販売量を増やし、単価向上を

図るために、漁協で前処理する取組が求められている。このような動きは試験的には行われているものの、まだ本格的な運用とはなっていない。

また、別府湾地域の共同利用施設は、漁業最盛期に建設された施設が多く、規模や仕様が現状と乖離していたり、老朽化が進んだりしているため、上記取組を行うためには現状にあわせた施設整備が必要となっている。

燃油や資材価格の高騰、マコガレイ、クルマエビ、タチウオ等、重要資源の減少などで漁家経営の厳しさは続いており、漁業後継者の新規着業も少ないことから、漁業従事者の高齢化も進んでいる。



図1 別府湾の位置図

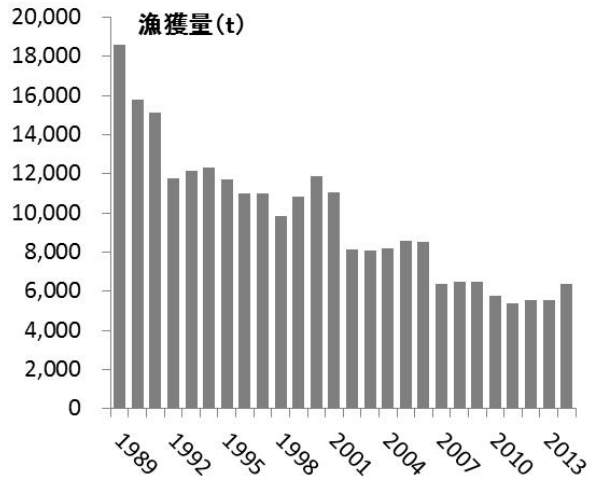


図2 別府湾における全漁獲量の推移

(出典 農林水産統計)

表1 別府湾の漁業の概要 (平成26年 大分県漁協調べ)

		杵築支店	日出支店	別府支店	大分支店	合計
正組合員数		210	78	71	79	438
漁獲金額 (千円)		1,634,153	537,144	318,363	269,974	2,759,634
漁獲量 (トン)		3,298	1,974	665	433	6,370
漁業種類別内訳 (トン)	小型底曳網	982	153	34		1,169
	船曳網	2,188	1,654	301		4,143
	刺網	37	30	35	261	363
	釣り		6	7	14	27
	小型定置網	81	25	43		149
	採貝・採藻	5	72	224	116	417
	その他の漁業	5	33	20	42	100
		杵築市	日出町	別府市	大分市	合計
人口 (H26.10.1)		30,312	28,017	121,422	477,788	657,539
宿泊客数 (H26)		—	—	2,126,189	777,550	2,903,739

(2) その他の関連する現状等

別府湾には大分市、別府市という県内最大の消費地が面し、2市の人口は大分県全体の51%以上となっている。特に別府市は日本一の温泉湧出量を誇り、国際観光温泉文化都市として知られている。隣接する大分市とは6車線の別大国道（国道10号線）で7km、JR日豊本線でも3駅と近く、交通アクセスも非常に良い。

近年では大分県が「おんせん県おおいた」のPRを積極的に行っており、別府市はその温泉の代名詞ともいえるべき知名度を誇ることから、県内に宿泊する観光客の約半数は別府市内に宿泊している。

このため別府市には、大分県漁協直営のレストラン兼直売所が設置され、県産魚を使った料理が味わえる他、県産魚の加工品などが入手できることから、休日を中心に賑わいを見せてはいる。しかしながら、さらにリピーターを増やす攻めの取り組みは必要である。

また別府湾地域で唯一、漁協が運営する魚市場が日出町にある。ここでは買参人が競り落とした魚を、見学者がその場で格安で購入することが出来るため、地元消費者のみならず、遠方からの来客も多く、地域特産魚の普及拡大に貢献している。

3 競争力強化の取組方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

4支店からなる別府湾の水産業において、既存の浜の活力再生プランと連動しその促進を図るとともに競争力強化や地域の活性化を目的に、以下のとおり広域的な取組の柱を定め、浜の機能再編や水産関連施設の集約、生産・販売体制の強化及び資源管理等の推進に取り組むこととする。

◆広域的な資源管理の強化及び栽培漁業の推進

既存の浜の活力再生プランにより、漁場環境保全、漁場造成、種苗放流、資源管理等に取り組んでいるところであるが、本プランでは、漁協4支店が広域的に連携し、新たに拠点放流や資源管理を一層高度化するとともに、ヒジキ増殖・資源管理等に取り組むことで、機能再編・地域活性化を推進する。

◆広域連携による魚価の向上と消費拡大の促進

大分県漁協4支店の生産・流通の拠点づくりを行い、漁獲物の集約化や衛生管理が強化できる効率的な運用体制を目指し、系統出荷の強化を行うこととする。また、地域間連携を行うことで地元消費拡大を目指していく。より具体的な取組方針は以下のとおり。

①魚価の向上

- ・日出地区のちりめん共販所を別府湾ちりめんの販売拠点とし、商標登録された「豊後別府湾ちりめん」販売促進を行う。
- ・小型底曳漁船の漁獲物を対象とした各地区の集荷機能を杵築地区に集約再編し、荷さばき施設及び加工処理施設を新設し、集出荷基地とする。そのうえで近年漁獲が安定している小型底曳網漁業によるハモや杵築地区の養殖カキ等、柱となる地域水産物を中心に、県漁協による集出荷販売体制を構築し魚価向上を目指す。
- ・時期によって漁獲期が集中するハモは、上記の集出荷基地で、ロットを揃えて最適な市場へ活魚出荷を行う他、骨切り加工による単価向上を図り、系統出荷利用の拡大を目指す。
- ・養殖カキは全国的に生産され産地間競争が激しいことから他産地との差別化を図るため、上記集出荷施設を活用した厳密な衛生管理を行い、集出荷販売体制を構築する。

②消費拡大の促進

- ・「豊後別府湾ちりめん協議会」等、別府湾地域の水産加工業者や商工会と連携し、以下の活動を行いながら地元消費拡大を図る。
- ・温泉地別府には国内外から多くの観光客が訪れるため、大分県漁協直営のレストラン兼直売所や、別府から近い大分県漁協日出支店の朝市の充実を図ることで集客機能の強化を図る。

- ・温泉地別府周辺を訪れる国内外からの観光客へ宣伝活動を行うとともに各種イベントでも積極的なPRを行う。
- ・学校の生徒や保護者等を対象とした料理教室を行う。

◆共同利用施設の機能強化・再編

- ・長期的な展望に立った施設整備のあり方について協議・検討を進め、共同利用施設の統廃合や製氷施設や荷捌き施設等漁業生産基盤の機能強化を行う。
- ・多様化するマーケットニーズに対応できる生産・加工体制の確立に向け、杵築地区の県漁協荷捌き施設を別府湾全地区における底曳網漁船の集出荷基地として位置づけ、荷捌き・蓄養・加工・冷凍を同一施設で出来るよう施設整備を行う。
- ・大分県漁協直営のレストラン兼直売所を別府湾地域の販売施設の拠点とし、集客機能の充実を図るため、必要に応じて加工処理施設の導入等を検討する。

(2) 中核的担い手の確保・育成に関する基本方針

持続的な漁業生産のためには地域の人口動態に見合った漁業従事者の確保が必要である。そのためには、新規参入が見込める漁業経営が可能となるよう、上記(1)の取り組みを進める。あわせて、以下の基本方針に基づき、新規漁業就業者の確保・育成を進めるとともに、将来の浜のリーダーとなる中核的担い手の育成を積極的に進める。

◆新規漁業就業者の確保・育成

- ・国、県、市町と連携し、新規就業者の募集・確保・育成・就業・定着促進までの一貫した新規漁業就業者支援を実施し、地域への定着を促進する。
- ・地元の幼稚園児や小中学生を対象とした水産教室等を開催し、漁業を身近な職業として認知してもらう。

◆中核的担い手の育成

- ・県が認定している「大分県青年漁業士・指導漁業士」を浜のリーダーとして地域漁業を振興する中核メンバーに位置づけ支援するとともに、将来活躍が期待される漁業者を漁業士に推薦する。
- ・大分県漁協青年部に所属する若手漁業者のうち、別府湾地区で漁業を営む青年部員を対象とした各種研修会等により資質の向上に努める。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁業法及び大分県漁業調整規則による規制のほか、漁業者間で約定する自主資源管理を進め、漁業資源の維持・安定化に努める。

大分県漁業公社等が生産した安心安全な種苗による種苗放流を行い、各市町が連携して広域栽培漁業の取り組みを推進することにより、資源の増大を図る。

主要な魚種であるクルマエビ、マコガレイ、サワラについては、積極的に種苗放流を行うとともに、公的規制の遵守のほか、漁業者間での自主的資源管理の約定、漁獲努力量削減促進に繋がる付加価値向上の取組を行う。

(4) 具体的な取組内容

1年目(平成29年度)

取組内容	<p>(1) 機能再編・地域活性化に関する取組</p> <p>◆広域的な資源管理の強化及び栽培漁業の推進</p> <p>◎別府湾の重要魚種であるマコガレイ、クルマエビ等の拠点放流を行い、資源増大に努める。また放流場所や放流手法の見直しによる放流技術の高度化を図る。</p> <p>◎特に、マコガレイは別府湾の重要魚種で「城下かきいり」として珍重されていることから、4市町、大分県漁協4支店が共同で経費負担を行い、日出地区の中間育成施設で全長5cmまで中間育成のうえ適地・拠点放流を行う。</p> <p>●近年、天然ヒジキ単価が向上し、別府湾におけるヒジキ漁獲量が増加傾向にあるため、増殖活動や資源管理の手法を検討する。</p> <p>◆広域連携による魚価の向上と消費拡大の促進</p> <p>①魚価の向上</p> <p>◎日出地区を別府湾ちりめんの販売拠点とし、別府湾各地で生産されるちりめん製品の集荷・入札機能を集約する。</p> <p>◎船曳漁業者と加工業者が連携し、これまでに商標登録された「豊後別府湾ちりめん」の生産技術改良を行い、さらなる単価向上を目指す。</p> <p>◎骨切りが必要なハモの集荷から蓄養、加工、冷凍等に必要な施設の整備や集出荷体制の強化を検討するため、骨切り機を利用した加工技術の習得に努める。</p> <p>◎ハモの系統出荷拡大のため、先進地視察を行う。</p> <p>◎低利用魚の加工利用に必要な施設整備を検討するとともに、先進事例を学ぶため、講師を招聘し勉強会を行う【①】。</p> <p>②消費拡大の促進</p> <p>●観光地の別府には、国内外から多くの観光客が訪れるため、大分県漁協直営のレストラン兼直売所を活用してちりめん、ハモ、アメタ(イボダイ)、サワラ等の別府湾で漁獲される魚介類を利用した新メニューの検討を行う。検討にあたっては、市や観光協会等関係機関とも協議し、観光地別府への集客の一助となるよう努める【①】。</p> <p>●「朝市」を観光資源として活用するため、観光関係者等との協議を進める。また観光客に安全に楽しんでもらうために必要な施設整備についても検討する。</p> <p>◎底曳網漁業で漁獲されるハモは、骨切り等の前処理を要することから、家庭料理の材料としては敬遠されがちなため、漁協において、骨切り販売することで消費の拡大を図るとともにイベントの開催やチラシの作成等によりハモの知名度の向上を図る【①】。</p> <p>◎地元商工会等に加盟する飲食店や学校給食で地元の水産物を利用してもらうため、情報交換に努める。</p>
------	--

	<p>◆共同利用施設の機能強化・再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大分県漁協本店及び各支店は漁業生産基盤の機能強化を図るため、地区の現状を踏まえながら共同利用施設の統廃合を含めた長期計画について関係者と協議する【③】。 ◎杵築地区を底曳網漁業の漁獲物集荷基地として、荷さばき、蓄養、加工処理を一貫して行うため水産物の集荷及び加工処理施設の設計準備を行う【③】。あわせて、操業中の水産物の鮮度保持を高め、鮮度の良い水産物を加工できるよう製氷施設整備の設計準備を行う【③】。 ◎操業中の水産物の鮮度保持を高めることで集出荷水産物の高鮮度化を図り、鮮度の良い水産物を加工できるよう杵築地区に製氷施設を新設する【③】。 <p>(2) 中核的担い手の確保・育成に関する取組</p> <p>◆新規就業者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎新規参入が見込める漁業経営が可能となるよう、競争力強化型機器等導入事業や広域浜プラン実証調査により収入向上・省コスト対策を行う【①、②】。 ◎競争力強化を目指す漁業者を中核的漁業者と位置づけ、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業により、その取組を支援する【④、⑤】。 <p>◆中核的担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎地区全体の核となる中核的担い手の育成と担い手組織の強化を図るため、各地区青年部で構成される別府湾漁業青年協議会の活動を通じて、漁業の知識、技術、資格、各種研修等を実施する。 ◎県が認定している「大分県青年漁業士・指導漁業士」を浜のリーダーとして地域漁業を振興する中核メンバーに位置づけ支援するとともに、将来活躍が期待される漁業者を漁業士に推薦する。
<p>活用する 支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 広域浜プラン実証調査（広域浜プラン緊急対策事業） ② 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ③ 水産業競争力強化緊急施設整備事業 ④ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ⑤ 水産業競争力強化金融支援事業 ⑥ 水産多面的機能発揮対策事業 ⑦ 水産基盤整備事業 ⑧ 青年漁業準備給付金 ⑨ 漁業経営セーフティネット構築事業

*◆取組方針の各項目、●具体的取組に向けた検討事項、◎新しく行う取組事項、○前年度から継続して行う取組事項

<p>取組内容</p>	<p>(1) 機能再編・地域活性化に関する取組</p> <p>◆広域的な資源管理の強化及び栽培漁業の推進</p> <p>○別府湾の重要魚種であるマコガレイ、クルマエビ等の拠点放流を行い、資源増大に努める。また放流場所や放流手法の見直しによる放流技術の高度化を図る。</p> <p>○特に、マコガレイは別府湾の重要魚種で「城下かきい」として珍重されていることから、4市町、大分県漁協4支店が共同で経費負担を行い、日出地区の中間育成施設で全長5cmまで中間育成のうえ適地・拠点放流を行う。</p> <p>◎近年、天然ヒジキ単価が向上し、別府湾におけるヒジキ漁獲量が増加傾向にあるため、増殖活動や資源管理の実証調査を行う。</p> <p>◆広域連携による魚価の向上と消費拡大の促進</p> <p>①魚価の向上</p> <p>○船曳漁業者と加工業者が連携し、これまでに商標登録された「豊後別府湾ちりめん」の生産技術改良を行い、さらなる単価向上を目指す。</p> <p>○骨切りが必要なハモの集荷から蓄養、加工、冷凍等に必要施設の整備や集出荷体制の強化を検討するため、引き続き骨切り機を利用した加工技術の習得に努める【③】。</p> <p>○低利用魚の加工利用に必要な施設整備を検討するとともに、先進事例を学ぶため、講師を招聘し勉強会を行う【①】。</p> <p>②消費拡大の促進</p> <p>○観光地の別府には、国内外から多くの観光客が訪れるため、大分県漁協直営のレストラン兼直売所を活用して、ちりめん、ハモ、アメタ（イボダイ）、サワラ等の別府湾で漁獲される魚介類を利用した新メニューの検討を行う。検討にあたっては、市や観光協会等関係機関とも協議し、観光地別府への集客の一助となるよう努める【①】。</p> <p>○「朝市」を観光資源として活用するため、観光関係者等との協議をすすめる。また観光客に安全に楽しんでもらうために必要な施設整備についても検討を継続する。</p> <p>○底曳網漁業で漁獲されるハモは、骨切り等の前処理を要することから、家庭料理の材料としては敬遠されがちのため、引き続き漁協において、骨切りまでの処理をして販売することで消費の拡大を図るとともにイベントの開催やチラシの作成等によりハモの知名度の向上を図る【①】。</p> <p>○地元商工会等に加盟する飲食店や学校給食で地元の水産物を利用してもらうため、情報交換を継続する。</p> <p>◆共同利用施設の機能強化・再編</p> <p>●引き続き、大分県漁協本店及び各支店は漁業生産基盤の機能強化を図るため、各地区の現状を踏まえながら共同利用施設の統廃合を含めた長期計画について関係者と協議する【③】。</p> <p>●杵築地区を底曳網漁業の漁獲物集荷基地として、荷さばき、蓄養、加工処理を一貫して行うため引き続き、水産物の集荷及び加工処理施設的设计準備を行う【③】。同施設ではハモの骨切り加工や、養殖マガキの生食出荷、底曳漁船で漁獲される低利用資源を用いた加工品製造も見据えた設計とする。</p>
-------------	---

	<p>(2) 中核的担い手の確保・育成に関する取組</p> <p>◆新規就業者の確保・育成</p> <p>○新規参入が見込める漁業経営が可能となるよう、競争力強化型機器等導入事業や広域浜プラン実証調査により収入向上・省コスト対策を行う【①、②】。</p> <p>○競争力強化を目指す漁業者を中核的漁業者と位置づけ、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業により、その取組を支援する【④、⑤】。</p> <p>◆中核的担い手の育成</p> <p>○新規参入が見込める漁業経営が可能となるよう、各地区青年部で構成される別府湾漁業青年協議会の活動を通じて、漁業の知識、技術、資格、各種研修等を実施する。</p> <p>○県が認定している「大分県青年漁業士・指導漁業士」を浜のリーダーとして地域漁業を振興する中核メンバーに位置づけ支援するとともに、将来活躍が期待される漁業者を漁業士に推薦する。</p> <p>◎各地域自治体や漁協等が主催する各種イベントに中核的担い手を積極的に参画させ、県内水産物の消費拡大と普及活動を行う。</p> <p>◎新たに設定された、「県産魚の日」による県内水産物の消費拡大と普及活動を行うため、関係機関と連携し、振興活動を支援する。</p>
<p>活用する 支援措置等</p>	<p>① 広域浜プラン実証調査（広域浜プラン緊急対策事業）</p> <p>② 競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>③ 水産業競争力強化緊急施設整備事業</p> <p>④ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業</p> <p>⑤ 水産業競争力強化金融支援事業</p> <p>⑥ 水産多面的機能発揮対策事業</p> <p>⑦ 水産基盤整備事業</p> <p>⑧ 青年漁業準備給付金</p> <p>⑨ 漁業経営セーフティネット構築事業</p>

*◆取組方針の各項目、●具体的取組に向けた検討事項、◎新しく行う取組事項、○前年度から継続して行う取組事項

<p>取組内容</p>	<p>(1) 機能再編・地域活性化に関する取組</p> <p>◆広域的な資源管理の強化及び栽培漁業の推進</p> <p>○別府湾の重要魚種であるマコガレイ、クルマエビ等の拠点放流を行い、資源増大に努める。また放流場所や放流手法の見直しによる放流技術の高度化を図る。</p> <p>○特に、マコガレイは別府湾の重要魚種で「城下かきい」として珍重されていることから、4市町、大分県漁協4支店が共同で経費負担を行い、日出地区の中間育成施設で全長5cmまで中間育成のうえ適地・拠点放流を行う。</p> <p>○近年、天然ヒジキ単価が向上し、別府湾におけるヒジキ漁獲量が増加傾向にあるため、引き続き増殖活動や資源管理の実証調査を行う。</p> <p>◆広域連携による魚価の向上と消費拡大の促進</p> <p>①魚価の向上</p> <p>○船曳漁業者と加工業者が連携し、これまでに商標登録された「豊後別府湾ちりめん」の生産技術改良を行い、さらなる単価向上を目指す。</p> <p>○ハモを中心に集出荷の取組を開始し、単価が下がる8月以降は骨切り加工にも着手する。また、低利用魚についても加工原料として活用を開始する【③】。</p> <p>②消費拡大の促進</p> <p>○観光地の別府には、国内外から多くの観光客が訪れるため、市や観光協会等関係機関とも協議し、漁協直営のレストラン及び直売所を活用して、ちりめん、ハモ、アメタ（イボダイ）、サワラ等の別府湾で漁獲される魚介類を利用した新メニューを提供する。また、「地獄蒸し食材セット」の試験販売を行うとともに、温泉地別府周辺を訪れる国内外からの観光客の集客に努めるため外国語版パンフレットを作成し、市内主要拠点に配布する【①】。</p> <p>○「朝市」を観光資源として活用するため、観光関係者等との協議をすすめる。また観光客にも安全に楽しんでもらうために必要な施設整備についても検討を継続する。</p> <p>○底曳網漁業で漁獲されるハモは、骨切り等の前処理を要することから、家庭料理の材料としては敬遠されがちのため、引き続き漁協において、骨切りまでの処理をして販売することで消費の拡大を図るとともにイベントの開催やチラシの作成等によりハモの知名度の向上を図る【①】。</p> <p>○地元商工会等に加盟する飲食店や学校給食で地元の水産物を利用してもらうため、情報交換を継続するとともに、新たな加工商品開発を行い地域観光資源として定着を目指す。</p> <p>◆共同利用施設の機能強化・再編</p> <p>●引き続き、大分県漁協本店及び各支店は漁業生産基盤の機能強化を図るため、各地区の現状を踏まえながら共同利用施設の統廃合を含めた長期計画について関係者と協議する【③】。</p> <p>○杵築地区を底曳網漁業の漁獲物集荷基地として、荷さばき、蓄養、加工処理を一貫して行うため水産物の集荷及び加工処理施設を建設して、集出荷体制強化の取組を開始する。同施設ではハモの骨切りを中心に、養殖マガキの生食出荷や底曳漁船で漁獲される低利用資源を用いた加工品製造も見据えた設計とし、マガキ、低利用魚の集出荷体制に向け活動を開始する【③】。</p> <p>○大分県漁協直営の直販所に加工処理施設を増設し、地域資源を用いた食材セットの加工を開始する【③】。</p>
-------------	--

	<p>(2) 中核的担い手の確保・育成に関する取組</p> <p>◆新規就業者の確保・育成</p> <p>○新規参入が見込める漁業経営が可能となるよう、競争力強化型機器等導入事業や広域浜プラン実証調査により収入向上・省コスト対策を行う【①、②】。</p> <p>○競争力強化を目指す漁業者を中核的漁業者と位置づけ、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業により、その取組を支援する【④、⑤】。</p> <p>◎各種新規漁業就業者対策事業等を活用し、漁協、県及び市町が連携し、新規就業者の確保、育成に取組む【⑧】。</p> <p>◆中核的担い手の育成</p> <p>○新規参入が見込める漁業経営が可能となるよう、各地区青年部で構成される別府湾漁業青年協議会の活動を通じて、漁業の知識、技術、資格、各種研修等を実施する。</p> <p>○県が認定している「大分県青年漁業士・指導漁業士」を浜のリーダーとして地域漁業を振興する中核メンバーに位置づけ支援するとともに、将来活躍が期待される漁業者を漁業士に推薦する。</p> <p>○各地域自治体や漁協等が主催する各種イベントに中核的担い手を積極的に参画させ、県内水産物の消費拡大と普及活動を行う。</p> <p>○引き続き「県産魚の日」による県内水産物の消費拡大と普及活動を行うため、関係機関と連携し、振興活動を支援する。</p>
<p>活用する 支援措置等</p>	<p>① 広域浜プラン実証調査（広域浜プラン緊急対策事業）</p> <p>② 競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>③ 水産業競争力強化緊急施設整備事業</p> <p>④ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業</p> <p>⑤ 水産業競争力強化金融支援事業</p> <p>⑥ 水産多面的機能発揮対策事業</p> <p>⑦ 水産基盤整備事業</p> <p>⑧ 青年漁業準備給付金</p> <p>⑨ 漁業経営セーフティーネット構築事業</p>

*◆取組方針の各項目、●具体的取組に向けた検討事項、◎新しく行う取組事項、○前年度から継続して行う取組事項

<p>取組内容</p>	<p>(1) 機能再編・地域活性化に関する取組</p> <p>◆広域的な資源管理の強化及び栽培漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○別府湾の重要魚種であるマコガレイ、クルマエビ等の拠点放流を行い、資源増大に努める。また放流場所や放流手法の見直しによる放流技術の高度化を図る。 ○特に、マコガレイは別府湾の重要魚種で「城下かれい」として珍重されていることから、4市町、大分県漁協4支店が共同で経費負担を行い、日出地区の中間育成施設で全長5cmまで中間育成のうえ適地・拠点放流を行う。 ○近年、天然ヒジキ単価が向上し、別府湾におけるヒジキ漁獲量が増加傾向にあるため、引き続き増殖活動や資源管理の実証調査を行う。 <p>◆広域連携による魚価の向上と消費拡大の促進</p> <p>①魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○船曳漁業者と加工業者が連携し、これまでに商標登録された「豊後別府湾ちりめん」の生産技術改良を行い、さらなる単価向上を目指す。 ○前年度完成した集荷、蓄養、加工施設の本格的な運営を開始する。 ○ハモについては、7月までは鮮魚出荷、8月以降は骨切り加工および急速冷凍を行うことにより、集出荷を周年行う。これらの取組を進めることで、消費地での認知度を高め、単価向上を目指す。 ○養殖マガキについては滅菌海水装置により生食用の活ガキの出荷を開始し単価向上を目指す。 ○低利用魚加工については商工会関係者と連携し、首都圏で通用する加工商品の開発を行う。 ○地域漁業者に漁協出荷を呼びかけ、ロット数の確保に努める【①】。 <p>②消費拡大の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光地の別府には、国内外から多くの観光客が訪れるため、引き続き市や観光協会等関係機関とも協議し、漁協直営のレストラン及び直売所を活用して、ちりめん、ハモ、アメタ（イボダイ）、サワラ等の別府湾で漁獲される魚介類を利用した新メニューの提供を継続する。また、「地獄蒸し食材セット」の本格販売を行うとともに、温泉地別府周辺を訪れる国内外からの観光客の集客に努めるため外国語版パンフレットを作成し、市内主要拠点に配布する【①】。 ○「朝市」を観光資源として活用するため、観光関係者等との協議をすすめる。また観光客にも安全に楽しんでもらうために必要な施設整備についても検討を継続する。 ○底曳網漁業で漁獲されるハモは、骨切り等の前処理を要することから、家庭料理の材料としては敬遠されがちのため、引き続き漁協において、骨切りまでの処理をして販売することで消費の拡大を図るとともにイベントの開催やチラシの作成等によりハモの知名度の向上を図る【①】。 ○地元商工会等に加盟する飲食店や学校給食で地元の水産物を利用してもらうため、情報交換を継続するとともに、新たな加工商品開発を行い地域観光資源として定着を目指す。 <p>◆共同利用施設の機能強化・再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、大分県漁協本店及び各支店は漁業生産基盤の機能強化を図るため、各地区の現状を踏まえながら統廃合を含めた長期計画について関係者と協議する【③】。
-------------	--

	<p>(2) 中核的担い手の確保・育成に関する取組</p> <p>◆新規就業者の確保・育成</p> <p>○新規参入が見込める漁業経営が可能となるよう、競争力強化型機器等導入事業や広域浜プラン実証調査により収入向上・省コスト対策を行う【①、②】。</p> <p>○競争力強化を目指す漁業者を中核的漁業者と位置づけ、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業により、その取組を支援する【④、⑤】。</p> <p>○各種新規漁業就業者対策事業等を活用し、漁協、県及び市町が連携し、新規就業者の確保、育成に取組む【⑧】。</p> <p>◆中核的担い手の育成</p> <p>○新規参入が見込める漁業経営が可能となるよう、各地区青年部で構成される別府湾漁業青年協議会の活動を通じて、漁業の知識、技術、資格、各種研修等を実施する。</p> <p>○県が認定している「大分県青年漁業士・指導漁業士」を浜のリーダーとして地域漁業を振興する中核メンバーに位置づけ支援するとともに、将来活躍が期待される漁業者を漁業士に推薦する。</p> <p>○各地域自治体や漁協等が主催する各種イベントに中核的担い手を積極的に参画させ、県内水産物の消費拡大と普及活動を行う。</p> <p>○引き続き、「県産魚の日」による県内水産物の消費拡大と普及活動を行うため、関係機関と連携し、振興活動を支援する。</p>
<p>活用する 支援措置等</p>	<p>① 広域浜プラン実証調査（広域浜プラン緊急対策事業）</p> <p>② 競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>③ 水産業競争力強化緊急施設整備事業</p> <p>④ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業</p> <p>⑤ 水産業競争力強化金融支援事業</p> <p>⑥ 水産多面的機能発揮対策事業</p> <p>⑦ 水産基盤整備事業</p> <p>⑧ 青年漁業準備給付金</p> <p>⑨ 漁業経営セーフティーネット構築事業</p>

*◆取組方針の各項目、●具体的取組に向けた検討事項、◎新しく行う取組事項、○前年度から継続して行う取組事項

<p>取組内容</p>	<p>(1) 機能再編・地域活性化に関する取組</p> <p>◆広域的な資源管理の強化及び栽培漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○別府湾の重要魚種であるマコガレイ、クルマエビ等の拠点放流を行い、資源増大に努める。また放流場所や放流手法の見直しによる放流技術の高度化を図る。 ○特に、マコガレイは別府湾の重要魚種で「城下かきい」として珍重されていることから、4市町、大分県漁協4支店が共同で経費負担を行い、日出地区の中間育成施設で全長5cmまで中間育成のうえ適地・拠点放流を行う。 ◎近年、天然ヒジキ単価が向上し、別府湾におけるヒジキ漁獲量が増加傾向にあるため、増殖活動や資源管理の手法を確立し、関係者による研修を行う。 <p>◆広域連携による魚価の向上と消費拡大の促進</p> <p>①魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○船曳漁業者と加工業者が連携し、これまでに商標登録された「豊後別府湾ちりめん」の生産技術改良を行い、さらなる単価向上を目指す。 ○引き続き集荷、蓄養、加工施設の本格的な運営を継続し、ハモの集出荷、生食用活ガキおよび加熱用殻付きカキの集出荷を行い、消費地での認知度を高め、単価向上を目指す。 ◎商工会関係者と連携し、首都圏で通用する加工商品のブランド化を行うとともに、低利用魚買い取り単価の向上を目指す。 ○地域漁業者に漁協出荷を呼びかけ、ロット数の確保に努める【①】。 <p>②消費拡大の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光地の別府には、国内外から多くの観光客が訪れるため、市や観光協会等関係機関とも協議し、漁協直営のレストラン及び直売所を活用して、ちりめん、ハモ、アメタ（イボダイ）、サワラ等の別府湾で漁獲される魚介類を利用した新メニューの提供を継続する。また、「地獄蒸し食材セット」の本格販売を継続するとともに、温泉地別府周辺を訪れる国内外からの観光客の集客に努めるため外国語版パンフレットを作成し、市内主要拠点に配布する【①】。 ○「朝市」を観光資源として活用するため、観光関係者等との協議をすすめる。また観光客にも安全に楽しんでもらうために必要な施設整備についても検討を継続する。 ○底曳網漁業で漁獲されるハモは、骨切り等の前処理を要することから、家庭料理の材料としては敬遠されがちなため、引き続き漁協において、骨切りまでの処理をして販売することで消費の拡大を図るとともにイベントの開催やチラシの作成等によりハモの知名度の向上を図る【①】。 ○地元商工会等へ加盟する飲食店や学校給食で地元の水産物を利用してもらうため、情報交換を継続するとともに、新たな加工商品開発を行い地域観光資源として定着を目指す。 <p>◆共同利用施設の機能強化・再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、大分県漁協本店及び各支店は漁業生産基盤の機能強化を図るため、各地区の現状を踏まえながら統廃合を含めた長期計画について関係者と協議する【③】。
-------------	--

	<p>(2) 中核的担い手の確保・育成に関する取組</p> <p>◆新規就業者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新規参入が見込める漁業経営が可能となるよう、競争力強化型機器等導入事業や広域浜プラン実証調査により収入向上・省コスト対策を行う【①、②】。 ○競争力強化を目指す漁業者を中核的漁業者と位置づけ、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業により、その取組を支援する【④、⑤】。 ○各種新規漁業就業者対策事業等を活用し、漁協、県及び市町が連携し、新規就業者の確保、育成に取組む【⑧】。 <p>◆中核的担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新規参入が見込める漁業経営が可能となるよう、各地区青年部で構成される別府湾漁業青年協議会の活動を通じて、漁業の知識、技術、資格、各種研修等を実施する。 ○県が認定している「大分県青年漁業士・指導漁業士」を浜のリーダーとして地域漁業を振興する中核メンバーに位置づけ支援するとともに、将来活躍が期待される漁業者を漁業士に推薦する。 ○各地域自治体や漁協等が主催する各種イベントに中核的担い手を積極的に参画させ、県内水産物の消費拡大と普及活動を行う。 ○引き続き、「県産魚の日」による県内水産物の消費拡大と普及活動を行うため、関係機関と連携し、振興活動を支援する。
<p>活用する 支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 広域浜プラン実証調査（広域浜プラン緊急対策事業） ② 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ③ 水産業競争力強化緊急施設整備事業 ④ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 ⑤ 水産業競争力強化金融支援事業 ⑥ 水産多面的機能発揮対策事業 ⑦ 水産基盤整備事業 ⑧ 青年漁業準備給付金 ⑨ 漁業経営セーフティーネット構築事業

*◆取組方針の各項目、●具体的取組に向けた検討事項、◎新しく行う取組事項、○前年度から継続して行う取組事項

(5) 関係機関との連携

◆漁場環境の保全

- ・海岸清掃や海底耕耘等、漁場環境保全活動についてはより効果的、効率的な活動を行えるよう、大分県、各市町と連携を図る。

◆資源管理の強化及び栽培漁業の推進

- ・資源管理については関係漁協4支店内で調整を行い、これまでの公的規制に加え自主的資源管理の強化を検討する。
- ・タチウオやマコガレイをはじめとして、特に漁獲量が減少している魚種について、資源の増加を図るため、大分県、各市町、（公社）大分県漁業公社と連携しながら放流を実施するとともに、魚礁や増殖場など漁場整備に努める。

◆魚価の向上と消費拡大の促進

- ・県外における魚価向上や消費拡大の取組については大分県、各市町、大分県漁業協同組合、全国漁業協同組合連合会等と連携を図る。県内、地元消費拡大については商工会や観光協会と連携し、朝市や各種イベントにおける販売活動や、学校の生徒や保護者等を対象とした料理教室を通じ、別府湾産の水産物の消費拡大を図る。併せて、温泉地別府周辺を訪れる国内外からの観光客への宣伝活動等を行う。

◆共同利用施設の整備

- ・共同利用施設整備にあたり、広域再生委員会や大分県漁業協同組合と協議を行い施設整備計画を検討する。また、予算については大分県、各市町、大分県漁業協同組合と協議を行う。

◆中核的担い手の確保・育成

- ・大分県漁業協同組合や別府湾漁業青年協議会と連携し、各種研修や支援等を実施していく。

(6) 他産業との連携

◆魚価の向上と消費拡大の促進

- ・各種イベントに参加し、水産物PRや販売等を行うため観光産業と連携して消費拡大に努める。

4 成果目標

(1) 成果目標の考え方

◆骨切り加工によるハモの単価向上

底曳網で多獲されるハモは、夏場は関西方面で比較的高値で取引されるが、それ以外の時期は値段が下がるため、拠点となる水産加工処理施設を整備し、最新設備を使用することで、より高い鮮度ですばやく、衛生的に骨切り加工、冷凍処理し、魚価の向上を目指す。

◆豊後別府湾ちりめんの認知度の向上や鮮度保持の徹底等による単価の向上

別府湾を代表する魚種の「シラス」は、「豊後別府湾ちりめん」の名称で大分県漁協が商標登録しており、この名称を各種イベントなどを通じてPRするとともに、加工業者で組織する団体等の指導により、鮮度保持や加工技術の向上に努める。さらに温泉地別府の蒸気を活用した新商品の開発により単価の向上を目指す。

◆中核的漁業者認定数

浜のリーダーとして地域漁業を振興する漁業者を中核漁業者に位置づけ、大分県漁業協同組合や別府湾漁業青年協議会と連携し、各種研修や支援等を実施することで、効果的な地域漁業の発展を目指す。

(2) 成果目標

骨切り加工によるハモの単価向上	基準年	平成27年度	:	366円/kg
	目標年	平成33年度	:	440円/kg
豊後別府湾ちりめんの単価向上	基準年	平成27年度		1,734円/kg
	目標年	平成33年度		1,907円/kg
中核的漁業者認定数	基準年	平成27年度		0人
	目標年	平成33年度		20人

(3) 上記の算出方法及びその妥当性

◆骨切り加工によるハモの単価向上

基準年：平成27年の大分県漁協の買取価格の平均。

目標年：平成33年の大分県漁協の買取価格の平均。

妥当性：拠点となる新たな加工施設で高度な加工をすることで、安心な商品を提供し、広域でのPR活動で認知度を高めることにより、基準年の単価の2割アップ（4%/年×5年間）を目指す。

$$366\text{円 (H27 単価)} \times 1.2 = 440\text{円 (目標)}$$

◆豊後別府湾ちりめんの単価向上

基準年：平成27年の共販所での入札価格の平均。

目標年：平成33年の共販所での入札価格の平均。

妥当性：「豊後別府湾ちりめん」の名称をPRして認知度を高めるとともに、加工技術の向上等により、基準年の単価の1割アップ（2%/年×5年間）を目指す。

$$1,734\text{円 (H27 単価)} \times 1.1 = 1,907\text{円 (目標)}$$

◆中核的漁業者の育成

基準年：平成27年の関係地区の中核的漁業者認定数

目標年：平成33年の関係地区の中核的漁業者認定数

妥当性：全漁業者（正組合員438人）の5%程度である20人（4地区×1名/年）を成果目標とした。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性
① 広域浜プラン実証調査 (広域浜プラン緊急対策事業)	浜の活力広域浜プランに基づく実証的な取組を実施する。
② 競争力強化型機器等導入緊急対策事業	生産性の向上、省力・省コスト化に資する漁業用機器等を導入する。
③ 水産業競争力強化緊急施設整備事業	競争力強化のために必要となる施設を整備する。
④ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	中古漁船又は新造漁船を導入する。
⑤ 水産業競争力強化金融支援事業	漁船の建造・取得・改修、漁業用機器等の導入に係る負担軽減を図る（融資）。
⑥ 水産多面的機能発揮対策事業	漁場の保全のための活動（藻場保全、漂着物処理）を実施する。
⑦ 水産基盤整備事業	漁場（魚礁・増殖礁）及び漁港整備を行う。
⑧ 青年就業準備給付金	新規就業者に対する漁業学校による研修・支援

⑨ 漁業経営セーフティネット構築
事業

燃油価格高騰への備えとして、資金を積み立て、価格高騰における影響を緩和し、経営の安定化を図る。